

見えない天井

ヴオクマ・ジョセリン (ブルキナファソ)

「女兒に対する差別と暴力」のようなとてもデリケートな問題について、考えたり書いたりすること、また、その「排除」に努めることは、女性にとって非常に辛いものがあります。この問題は、人間そのものや、自由、伝統、文化についての問題に関連してきます。世界には、人口の半分以上を占める女性に対して、男性と同じ生活を送る権利を拒む社会が存在します。そのような社会では、女兒には生まれた瞬間から、その先の成長過程における男児と平等な機会が与えられていません。

かつては女性が妊娠すると、性別が判る前から「女の子ならあなたに嫁がせる」とおなかの子の両親が相手の男性に約束していました。もし生まれたのが男児なら、未来の花婿は「姑」が女兒を産むまで待つこととなります。一方、男児は生まれる前から妻を決められたりはしません。コミュニティの規則で、男性は妻を選ぶのに必要なだけ時間をかけることが許されます。

また、女性に比べて、男性にはより多くの自己実現の機会があります。社会は、当然のように男性に最も高い立場を与えますし、女性に同じ能力があっても男性の方をより優遇します。男児はさまざまな機会を与えられ力をつけていくのに、女兒にはそのような機会は与えられません。このことが、女兒や女性には越えることのできない社会的・心理的限界が存在する、一般にグラス・シーリング（見えない天井）と呼ばれる状況を生み出しています。

女性としての進歩は、女兒がまだ幼いうちから阻止されます。暴力は、女兒を母親以上に進歩させないための1つの方法です。また、女兒は、長期間学校に行くと勉強のし過ぎになるのでよくないとされます。教育程度が高くなるほど女兒は社会への危険因子になる、というのが一般的な考え方です。このような社会的・文化的不平等を排除する戦略として1番になすべきことは、男性と女性の相互関係についての新しい考え方を広め、因習的な社会の見方を打ち破ることです。

国家レベルでは、政府は子どもの権利条約を批准しており、子どもに対する暴力と差別を罰する法律もいくつかあります。しかし、女兒保護の必要性を人びとに浸透させることが最大の課題です。

現在、ブルキナファソには国連児童基金の援助による子ども国会があり、子どもたちはそこで民主主義とパワー・マネジメントを実践し、自分の権利を擁護することを学んでいます。子どもを守るべき大人が、子どもに対してさまざまな罪を犯す事件がますます増えています。この子ども国会では子どもが絡んだ事件の裁判を行い、そのための判事もいます。さらに、子どもの権利に関する情報を伝えるラジオ番組もあります。文章や写真で、暗に児童虐待告発の態度を示すジャーナリストの数も増えており、子どもを虐待して刑罰を逃れることは困難になりつつあります。今はまだ、昔から続いた社会秩序を変えるのに

必要な新戦略実施の緒に就いたところでしかありませんが、女兒には安全で安心な将来が待っているとわれわれは信じています。